

Advancing Dental Health , Oral Physician Course 2016 感想文

スウェーデンの歯科医療を直接この目で見て、感じてみたい。
予防医療の本質とはなんなのか？
行けばそこにあると思った「何か」を求めて今回の研修に申し込んだ。
その「何か」は意外なところにあったという事を気付かされたとても価値のある研修であった。

初日はコペンハーゲンからマルメへのバス移動。
私たちが歓迎してくれているような快晴の中、海辺を走るバスは心地よかった。
その夜にはウエルカムパーティー。
初めに熊谷先生からのメッセージが朗読された。
その中にあった、大切なのはシステムではない。というメッセージ。
これは、この研修の中で私が求めたものであるかもしれないと思った。
憧れのダン・エリクソン先生から歓迎のお言葉を頂き、直接お会いできた感動と、多忙の中、時間を割いて来て頂いた事に対して感謝の気持ちでいっぱいだった。

講義ではまず、このコースの目標が示された。

“To advance dental health”

これを学びに来たのだが、それが明確に示された事に対して、喜びを感じた。
スウェーデンの歯科事情。マルメの歴史、教育システム。
各セッションのそれぞれの先生の言葉は一言たりも聞き逃したくないものであり、時差ボケなど全く感じずに講義を受ける事ができた。
2日目の最初に登壇された mejäle 先生には驚いた。
彼女がゴールドスタンダードだ。とエリクソン先生から紹介された。
あの論文のあの人だ！！と気づいた時は、デンタルカリエスを持ってこなかった事に後悔した。

リスクアセスメントについての復習もとても有意義であった。
実際にマルメ大学で唾液検査をする事になるとは思わなかったが、100人同時の唾液検査は圧巻で、ギネスブックに載せられるのではないかとも思った。
100人の検査結果を並べてみると、やはりハイリスクの人はごく一部であり、

どうして日本人の口腔の健康は・・・。と分かっていた事ではあるが、改めてがっかりした。

それぞれの講義に感想を述べると長くなってしまいうので省略するが、今回の研修での一番の収穫は、ダン・エリクソン先生の人間性に触れる事ができた事だ。すべての講義に重み、深みを感じた。

熊谷先生と出会った時とはまた異なった感情があった。

エリクソン先生の講義で繰り返していたお言葉。「Think!!」

これにすべてが集約されていた。

予防医療を推進していく上で必要な事。

それが歯科医療従事者に浸透しており、そういった環境づくりが国レベルで行われている事は羨ましくもある。

まずは自分自身に何ができるのか？

それを考え、実行し続けていこうと改めて決意した。

オーラルフィジシャンマルメ研修は、知識や技術だけを学ぶ場ではなく、誰しもが持っている「何か」を探しに行く場だと思う。

「何か」を求めた事は正解だった。

「何か」は自分の中にあり、それは尽きる事のないエネルギーを持っている。

「何か」は哲学であり、人間性であり、情熱である。

これを医院全体へ浸透させるべく、日々精進していく所存である。

このセミナーを企画・運営して下さった熊谷先生。日吉歯科関係者の方々。オーラルケア大竹社長。オーラルケア関係者の方々。名鉄観光の清田さんをはじめその他関係者の方々に深く感謝申し上げます。

いつか、医院のスタッフにもこの感動を味わってもらいたいと思っています。

最後に、この研修を今後も継続して頂く事を強く希望し、感想文とさせていただきます。

ありがとうございました。

長谷川みらい歯科
院長 長谷川 雄一